地域生活への移行について

ー　大阪府立金剛コロニーにおける
地域生活移行支援の実践から　ー

平成２４年６月５日（火）

社会福祉法人　大阪府障害者福祉事業団
総合施設長　　久保田　全孝

大阪府障害者福祉事業団　沿革

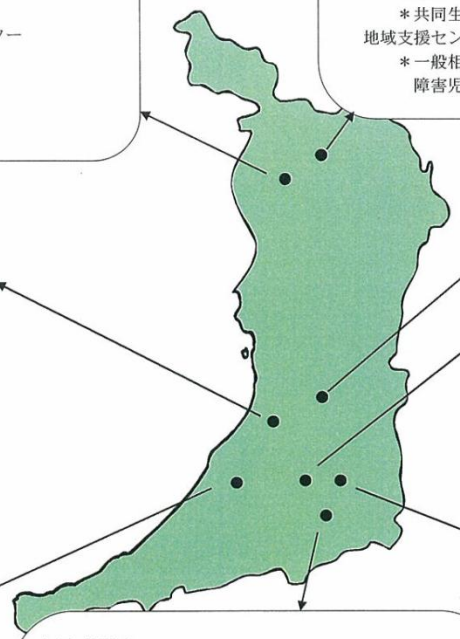
- 昭和45年　4月　1日　　大阪府立金剛コロニー開所（大阪府から運営を受託）
  しいのき寮（児童）くすのき寮（更生）開設
- 昭和46年　4月　1日　　すぎのき寮（児童・更生）けやき寮（授産）開設
- 昭和47年　4月　1日　　ひのき寮（授産）　かしのき寮（授産）開設
- 昭和48年　4月　1日　　若松寮（授産）もみのき寮（更生）開設
- 平成 2年　4月　1日　　知的障害者地域生活援助事業（グループホーム）を開始
- 平成 5年　4月　1日　　明光ワークス開所
- 平成 6年　6月　1日　　地域福祉課にグループホーム室を設置
- 平成 7年　4月　1日　　大阪ＩＮＡ職業支援センター開所
- 平成 8年　4月　1日　　法人の名称を社会福祉法人大阪府障害者福祉事業団に変更
  箕面通勤寮開所
  稲スポーツセンター開所
- 平成13年　5月 14日　　地域福祉課グループホーム室を地域生活総合支援センター「ゆう」に改称
- 平成15年 12月　1日　　ワークくみのき開所
- 平成17年　4月　1日　　自閉症児支援センターＳun開所
- 平成17年　7月　1日　　障害者地域移行支援センター（法人で５か所）設置

- 平成18年 7月 1日　知的障害者通所授産施設「ワークさつき」開所
- 平成19年 4月 1日　重症心身障害児施設すくよか開所
  じょぶライフだいせん開所
- 平成19年 5月 1日　自閉症児支援センター青空開所
- 平成20年 4月 1日　かんなびのさと開所
  地域生活総合支援センターきらら開所
- 平成21年 4月 1日　地域生活総合支援センターおんど開所
- 平成23年 4月 1日　地域生活総合支援センターあい開所

大阪府障害者福祉事業団　事業所一覧

平成２４年４月１日

＊〔　〕内の数字は定員（単位：人）



箕面市

明光ワークス
- ＊生活介護〔20〕
- ＊就労移行支援〔36〕
- ＊自立訓練（生活訓練）〔24〕
- ＊就労継続支援Ｂ型〔40〕
- ＊日中一時支援事業〔24〕

あいあい・ほくせつ
- ＊共同生活介護
- ＊共同生活援助
〔95〕

こども発達支援センター青空
- ＊児童発達支援・放課後等デイサービス〔10〕

大阪ＩＮＡ職業支援センター
- ＊職業訓練校〔30〕

大阪府立稲スポーツセンター
- ＊スポーツセンター

茨木市

地域生活総合支援センターあい
- ＊生活介護〔40〕
- ＊就労移行支援〔10〕
- ＊就労継続支援Ｂ型〔10〕

ショートステイあい
- ＊短期入所〔10〕

あいあい・みしま
- ＊共同生活介護
- ＊共同生活援助
〔60〕

地域支援センターあいあいみしま
- ＊一般相談支援・特定相談支援
障害児相談支援

松原市

地域生活総合支援センターおんど
- ＊生活介護〔30〕
- ＊就労移行支援〔12〕
- ＊就労継続支援Ｂ型〔18〕
- ＊短期入所〔６〕

おんど
- ＊共同生活介護
- ＊共同生活援助
〔59〕

大阪狭山市

ワークくみのき
- ＊就労移行支援〔10〕
- ＊就労継続支援Ｂ型〔30〕

地域支援センターぱるぱる
- ＊一般相談支援・特定相談支援
障害児相談支援

堺市

じょぶライフだいせん
- ＊障害者支援施設
（施設入所支援〔40〕・生活介護〔50〕・就労移行支援〔30〕）
- ＊短期入所〔4〕

のどか
- ＊共同生活介護
- ＊共同生活援助
〔30〕

地域支援センター風車
- ＊一般相談支援・特定相談支援

富田林市

大阪府立金剛コロニー
- しいのき寮（福祉型障害児入所施設〔60〕・障害者支援施設〔40・60〕）
- すぎのき寮（福祉型障害児入所施設〔40〕・障害者支援施設〔60・40〕）
（短期入所〔10〕）（日中一時支援事業（わかまつ）〔15〕）
- くすのき寮（障害者支援施設〔120〕）
- かしのき寮（障害者支援施設〔72〕・短期入所〔2〕）
- もみのき寮（障害者支援施設〔72〕・短期入所〔1〕）

もっと（生活介護〔24〕・就労継続支援Ｂ型〔16〕）

すくよか
- ＊医療型障害児入所施設〔105〕
- ＊療養介護〔105〕
- ＊短期入所〔5〕

かんなびのさと
- ＊特別養護老人ホーム〔80〕
- ＊短期入所〔20〕

地域生活総合支援センター「ゆう」
- ＊居宅介護
- ＊行動援護
- ＊同行援護
- ＊移動支援
- ＊一般相談支援、特定相談支援・障害児相談支援

ゆう
- ＊共同生活介護
- ＊共同生活援助
〔135〕

泉大津市

ワークさつき
- ＊生活介護〔22〕
- ＊就労継続支援Ｂ型〔38〕
- ＊日中一時支援事業〔5〕

さつき
- ＊短期入所〔4〕

さざなみ
- ＊共同生活介護
- ＊共同生活援助
〔48〕

河内長野市

地域生活総合支援センターきらら
- ＊生活介護〔35〕
- ＊就労移行支援〔15〕
- ＊日中一時支援事業〔5〕

きらら
- ＊共同生活介護
- ＊共同生活援助
〔45〕

こども発達支援センターＳｕｎ
- ＊児童発達支援・放課後等デイサービス〔10〕

南河内南障害者就業・生活支援センター事業

地域支援センターかーな
- ＊一般相談支援・特定相談支援・障害児相談支援

こんごう福祉センター

(大阪府富田林市）

こんごう福祉センター
平成24年度

知的障害児施設(定員60名)
障害者支援施設(定員40名)

知的障害児施設(定員40名)
障害者支援施設(定員60名)

障害者支援施設(定員120名)

障害者支援施設(定員72名)

障害者支援施設(定員72名)

医療型障害児入所施設(定員105名)
療養介護(定員105名)短期入所(5名)

特別養護老人ホーム(定員80名)
短期入所(定員20名)

金剛コロニー定員の推移

	H18	H19	H20	H21	H22	H23
定員（人）	850 うち （児100）	720 うち （児100）	640 うち （児100）	570 うち （児100）	506 うち （児100）	464 うち （児100）
コロニーの状況		けやき寮 閉鎖	ひのき寮 閉鎖	若松寮 閉鎖寮 もみのき寮 定員減	かしのき寮 定員減	もみのき寮 定員減 かしのき寮 定員減

地域生活への移行支援
これまでの取り組み（金剛コロニー）

昭和５０年頃～	地域での生活を想定し、職員宿舎を利用して自立訓練を開始
昭和６１年	富田林市内の民家を借り受け、ケア付住宅で地域生活移行支援を開始。職員宿舎の空き室を「自立訓練棟」として利用
平成２年度～	地域生活援助事業（グループホーム）開始
平成６年度	グループホーム室を設置　→　平成９年度富田林市街へ移転
平成８年度～	知的障害者自活訓練事業を実施し、施設機能強化推進費（特別事業）の事業加算を受け、地域生活移行支援を実施
平成１２年7月～	地域生活移行支援モデル事業（ブランチホーム）を開始
平成１３年度	地域生活総合支援センター「ゆう」を開設 （グループホーム室　→「ゆう」）
平成１７年度～	府内５ケ所に地域移行支援センターを設置（平成２０年度末終了）し、地域生活移行にかかる支援を本格的に開始
平成１８年度～	堺市に地域移行支援センターを設置（平成２１年度末終了）
平成２０年度～	府内３ケ所に新規地域移行支援センターを設置 （平成２３年度途中終了）

大阪府障がい者地域移行支援センター事業の機能

- 施設入所中または地域で生活している障がい者及びその家族の地域生活移行に関する相談に応じる。
- 生活の場であるグループホームと日中活動の場を合わせて提供するためのコーディ　ネート機能を有する。
- 圏域内の市町村及び障がい福祉サービス事業所等並びに地域自立支援協議会と積極的に連携を図り、地域生活移行に必要な支援体制を構築する。

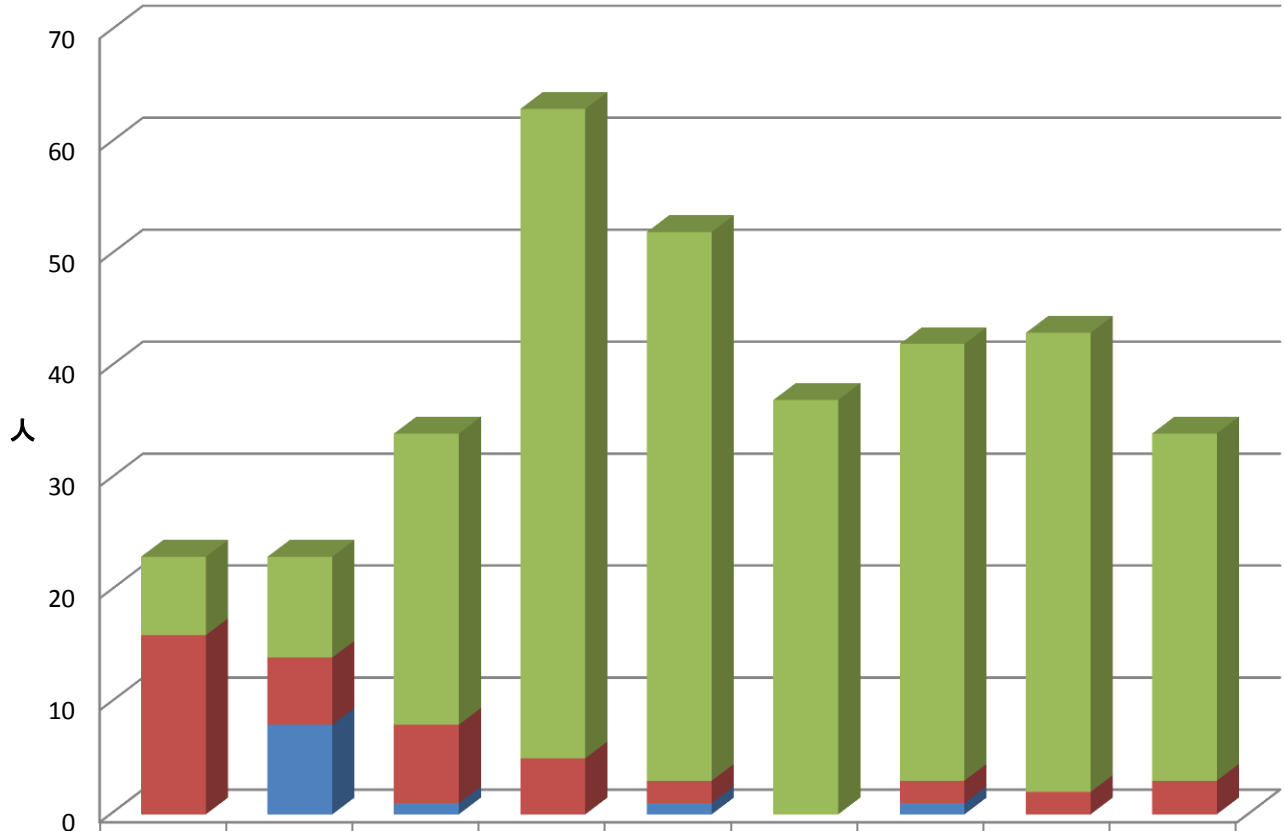
平成20年度～事業実施の場合

- ３年間で総定員最低30人以上のGH及びCHを開設
- 総定員の概ね1/4は入所施設から地域生活へ移行する者を含める

（指定都市・中　核市を事業実施区域とする場合は概ね1/2は地域移行）

《平成21年度4月施行　事業実施要領より》

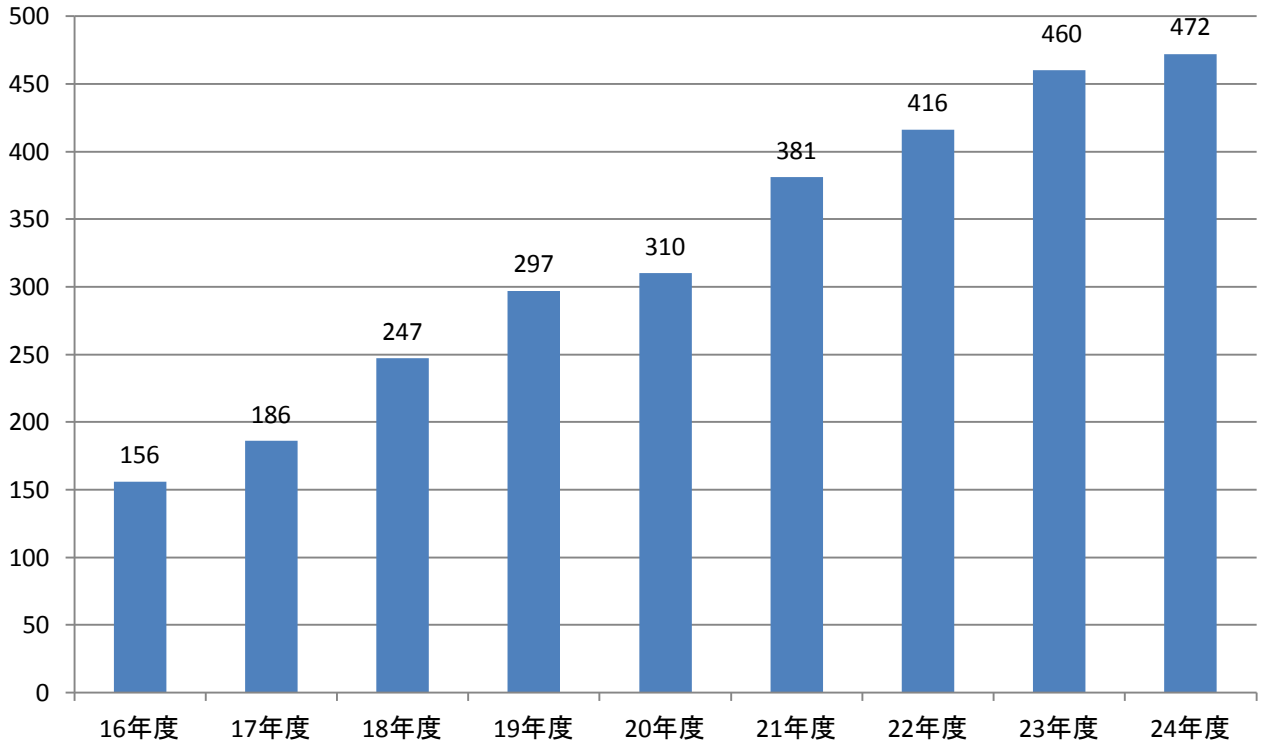
地域生活移行者数



	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
GH・CH	7	9	26	58	49	37	39	41	31
家庭引取	16	6	7	5	2	0	2	2	3
単身	0	8	1	0	1	0	1	0	0

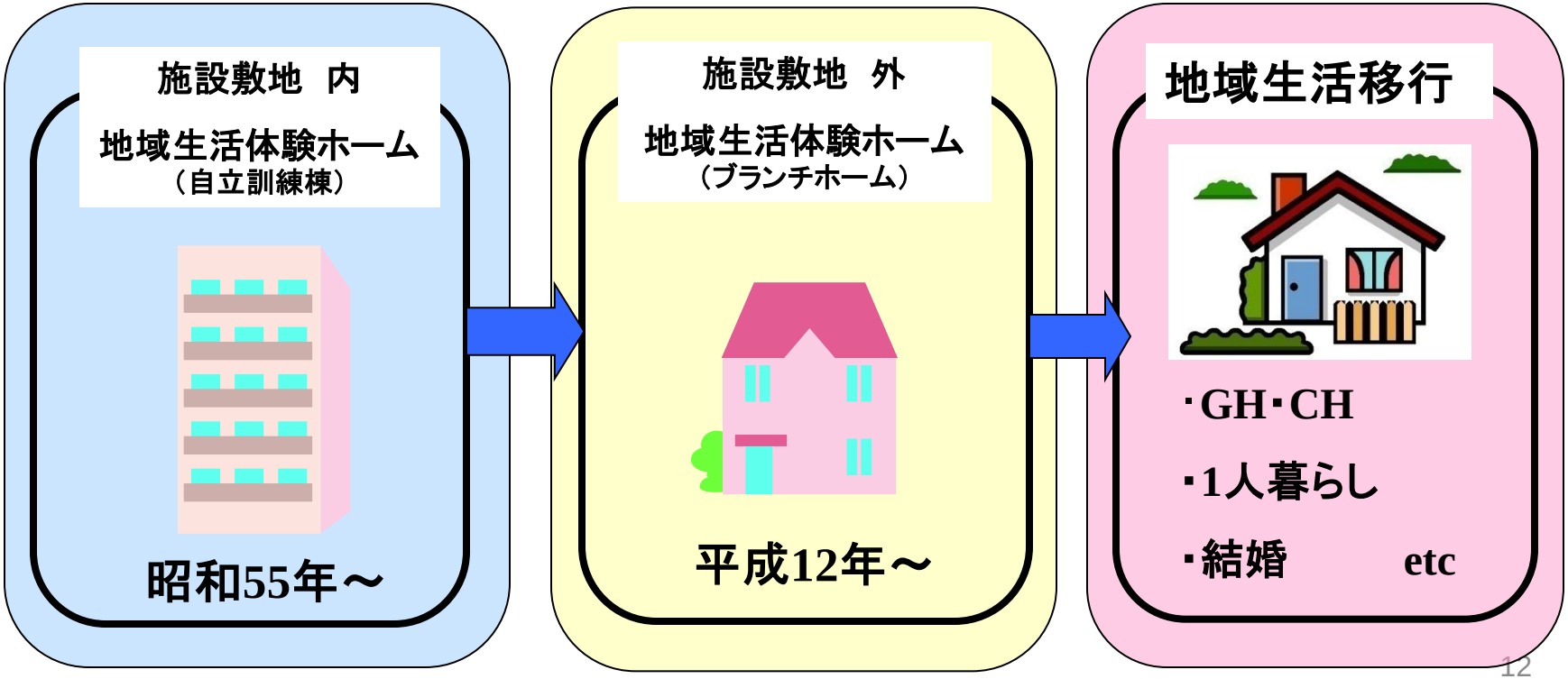
移行者数　計351人（H15～H23）

平成24年4月1日現在
事業団グループホーム・ケアホーム事業所　　7事業所
定員計　472人



地域生活へ向けて・・・

- ニーズに応じた実体験を通して、利用者のエンパワメント
- 自己決定・自己選択の地域移行支援



地域生活体験ホームを活用した事例のひとつに・・・

『カップルでの生活を目指して！』

交際中の２人の想い・・

『施設を出て一緒に暮らしたい』

⇩

施設内の地域生活体験ホーム

で２人の生活を体験

「２人でがんばれそう・・・
でも施設を出るのは少し不安」

⇩

地域にあるアパートにて実際に生活体験

☆カップルで生活することの楽しさを体験し、ひとつひとつ
不安を解消しながら、地域での生活を目指しておられます

利用者・家族のエンパワメント支援

◆情報の提供

【実施内容】

・制度や地域移行支援センター事業についての説明会
・当事者（ブランチホーム体験者、グループホーム入居者）による体験紹介
・ワークショップ「“困ったときにどうする？”悪徳商法と消費生活相談を知ろう」
・家族説明会、ホーム紹介、情報誌の発行　　等

【参加者数】

平成17年～平成20年度　合計　817人

◆見学会等の実施

【内容】

・グループホーム、ケアホーム、日中活動の場等見学
・ホームの体験入居

ニーズを明確にするには、具体的でわかりやすい情報提供と実際の体験が重要

まず、“本人の想い”から・・・

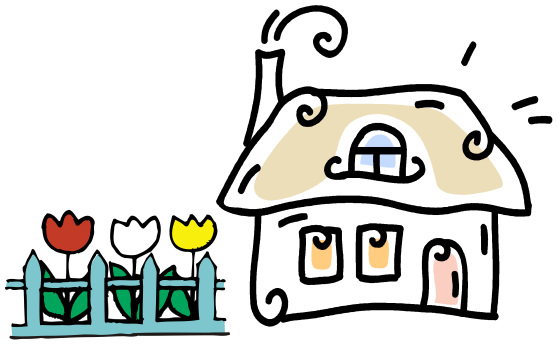
２つの調査を通して

★地域生活移行に関するニーズ調査

（平成16年度・平成19年度・平成20年度実施）

★地域生活移行者の聴き取り調査

（平成19年度・平成20年度実施）



地域生活移行に関するニーズ調査について

◆なぜ、この調査を行ったのか？

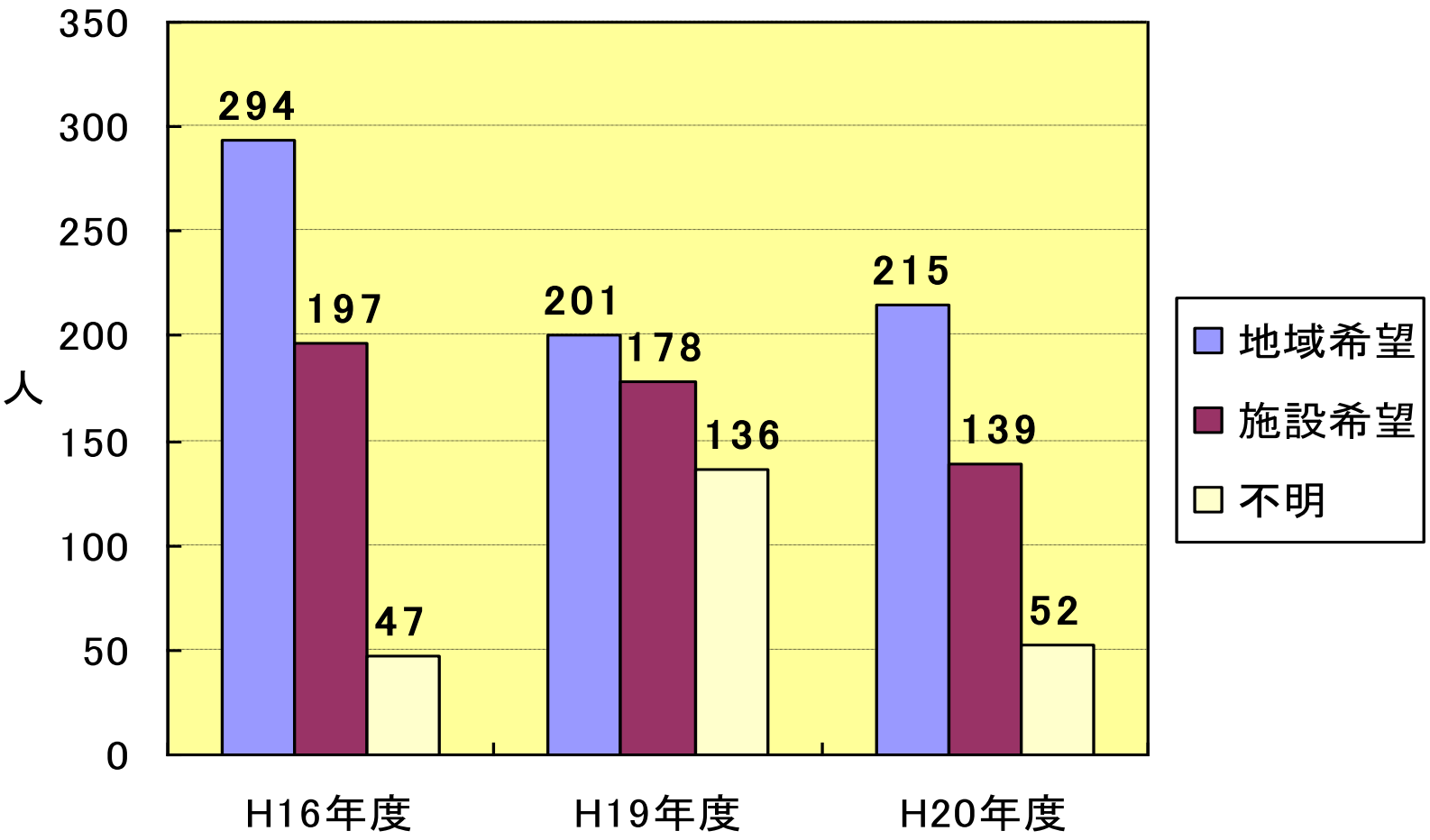
・地域生活への移行についての意向確認
・地域生活移行支援で何を希望されているかの確認
・「地域で暮らしたい」という願いに応えるための課題の整理

◆調査回答数

平成16年度：利用者805人のうち538人・家族616人
平成19年度：利用者606人のうち515人・家族373人
平成20年度：利用者496人（＊平成19年度実施ニーズ調査の追跡調査）

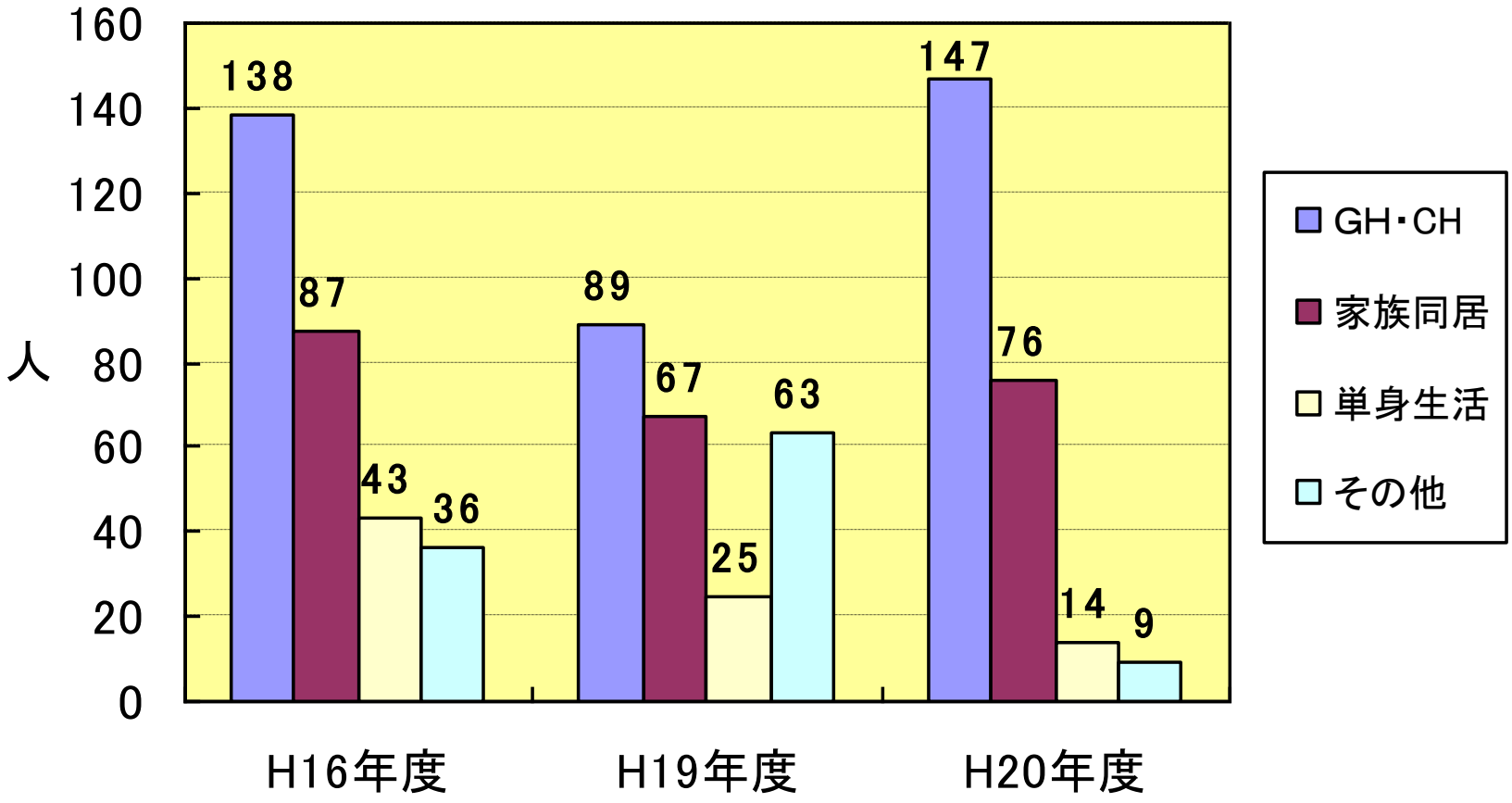
～利用者の回答結果から～

これからどこで暮らしたいですか？



～利用者の回答結果から～

地域でどんな暮らしがしたいですか？（複数回答）



～利用者の回答結果から～
これからどこで暮らしたいか？
「わからない」「どちらでもいい」理由は？（複数回答）

平成19年度調査結果より

・新しいことが不安

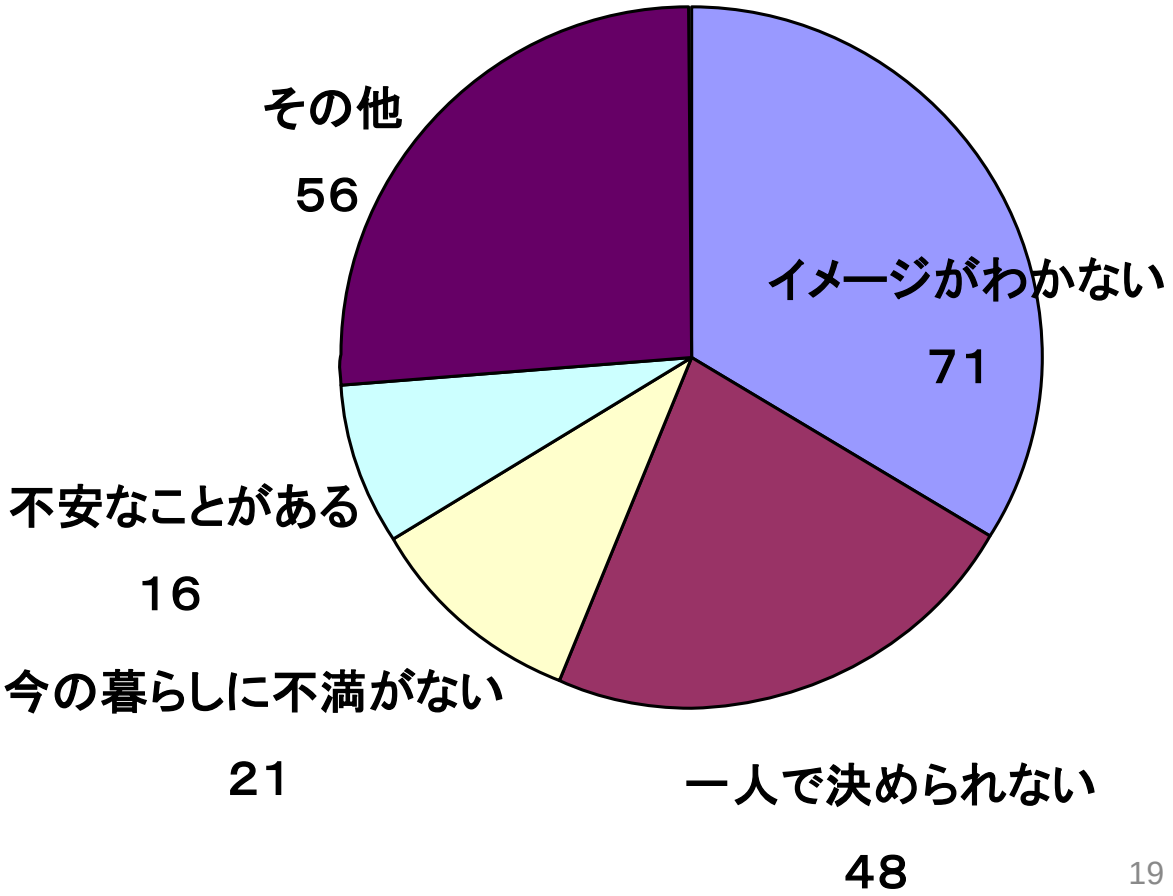
・周りの人の目が気になる

・お金がかかる

・医療ケアが不安

・まだ、具体的には考えられない

・意思確認困難

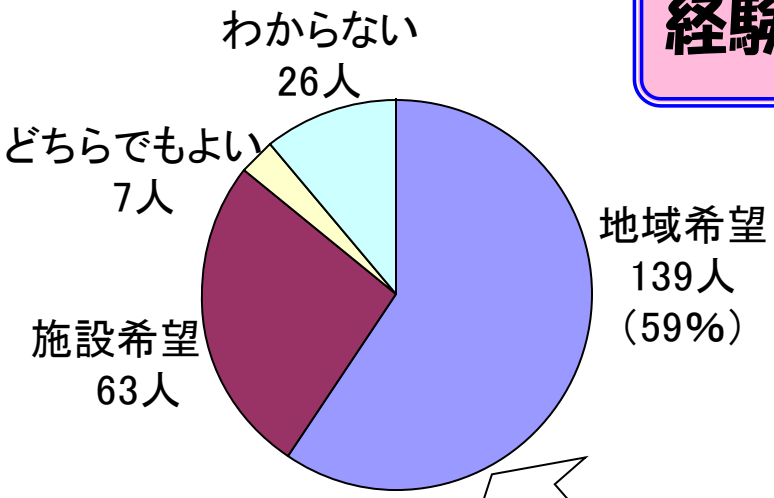


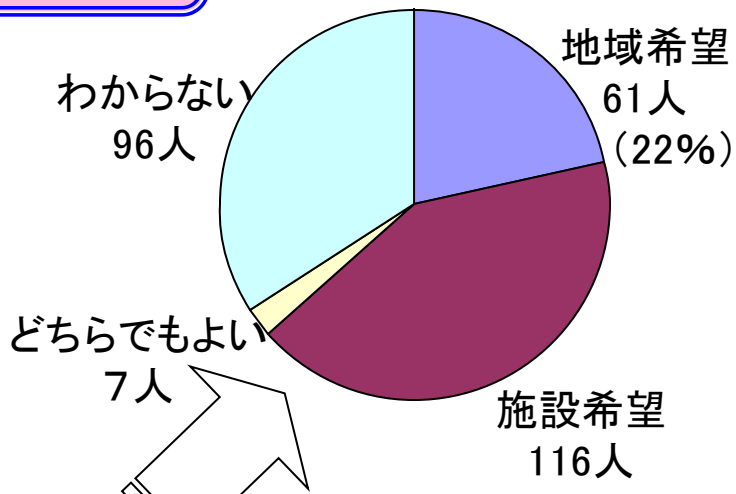
～利用者の回答結果から～

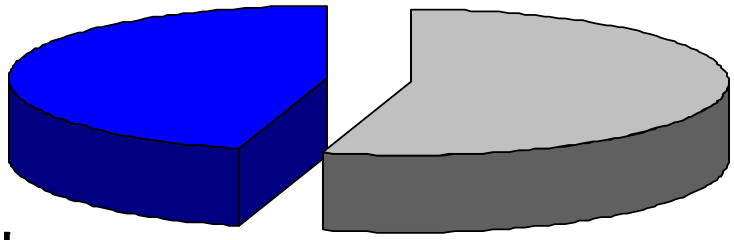
見学・体験入居・説明会参加等の事前の体験の有無によって・・・

平成19年度調査結果より

経験は大事！





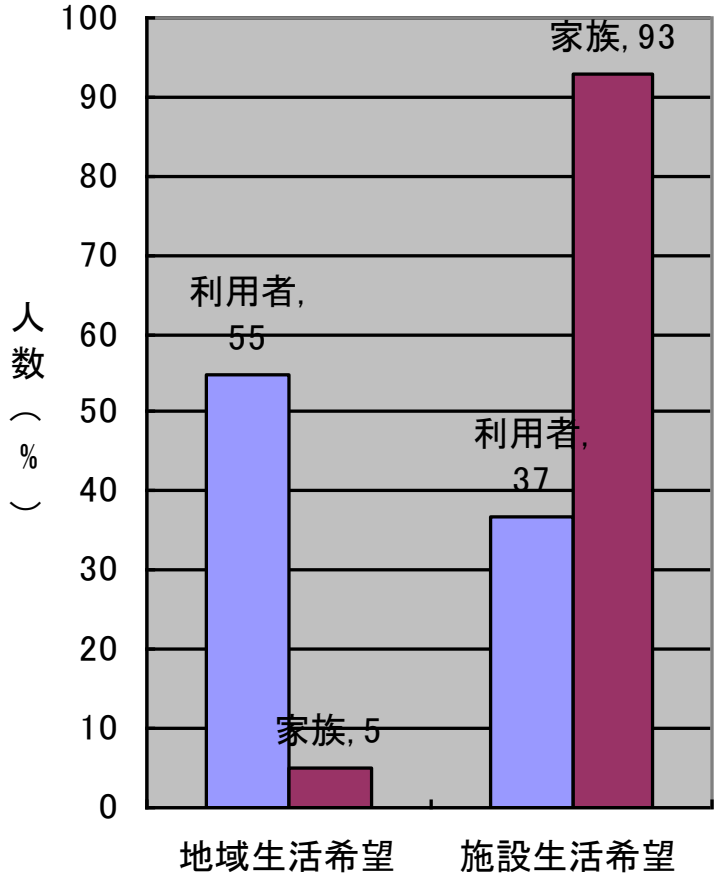


1つ以上経験がある人
235人

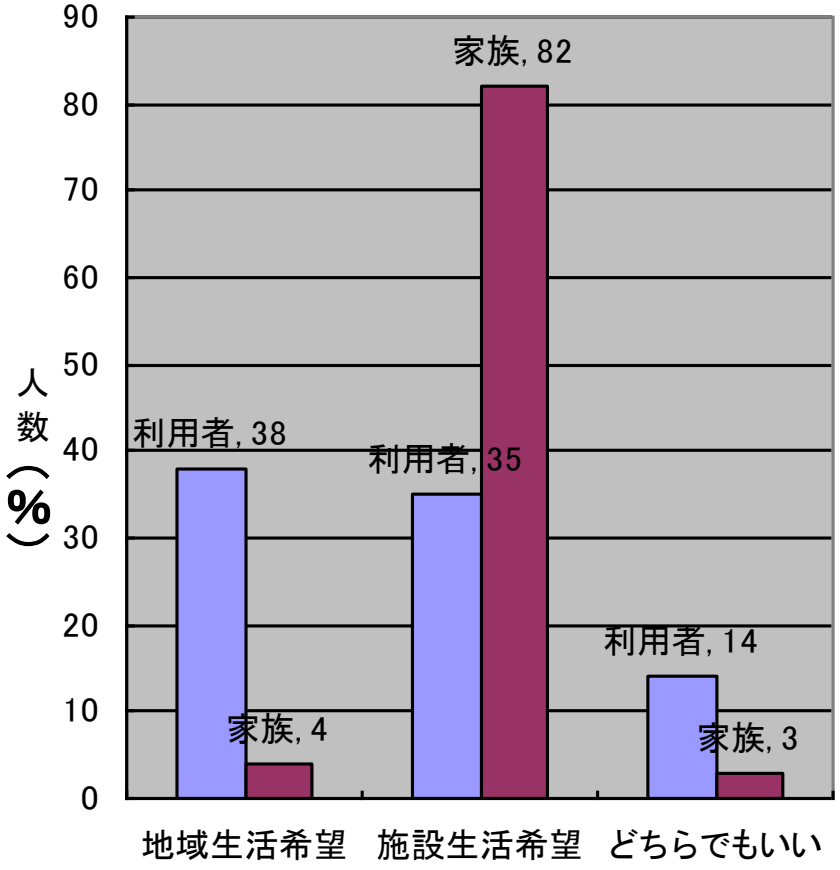
経験がない人
280人

利用者と家族の希望比較

本人・家族、両者の想いが大切 ⇒ 家族の不安を軽減し、理解を求める



16年度調査結果



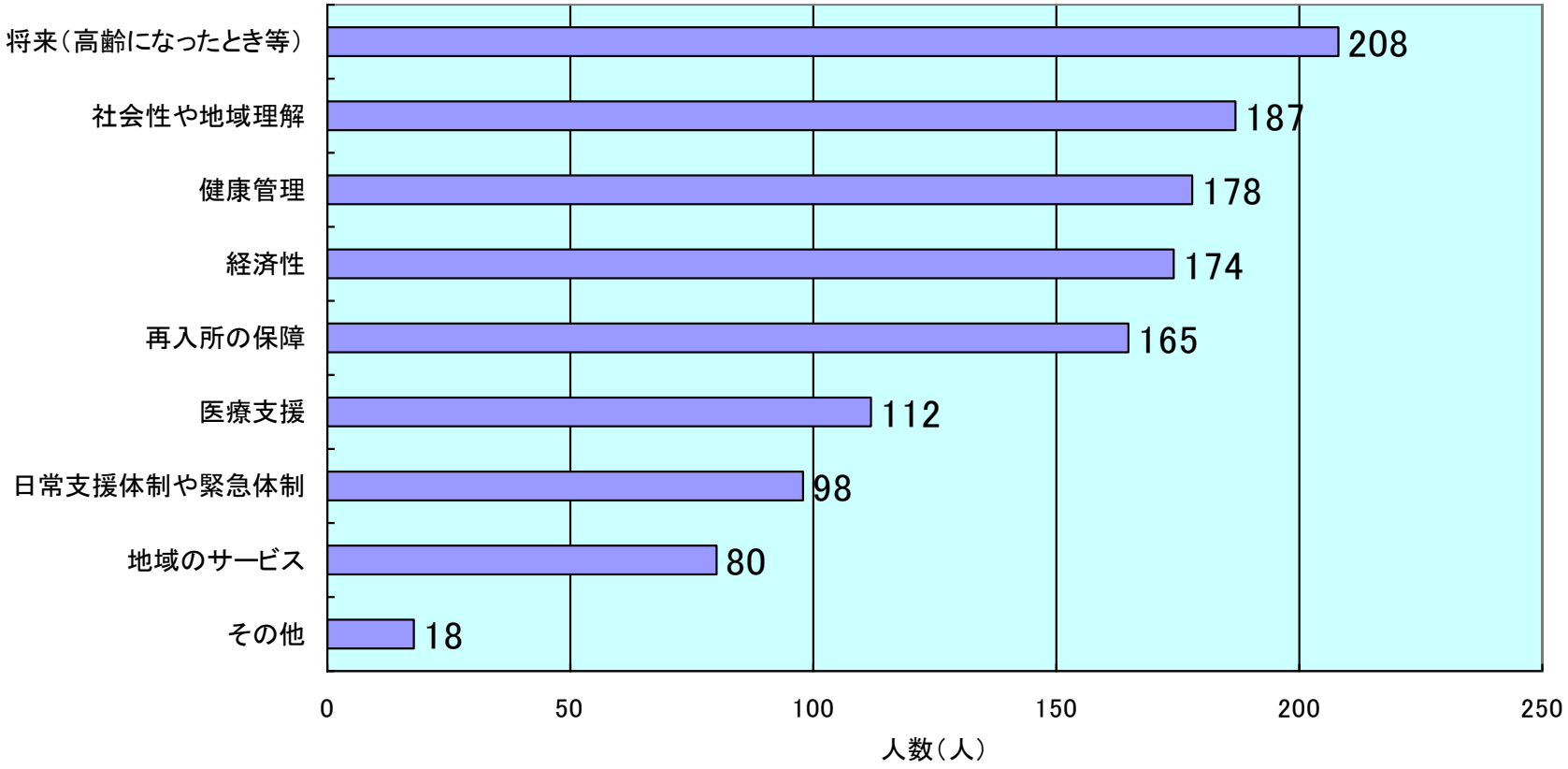
19年度調査結果

～家族の回答結果から～

仮定として・・地域で生活するときに心配なことや不安なこと

平成19年度調査結果より

（複数回答あり）



家族のご意見ご要望

自由に想いを書いていただきました

平成19年度調査結果より

- どうして地域移行しなければいけないのかわからない
- 家族に負担がかかるのでは？家族もいろいろな問題を抱えている
- 地域住民の理解が不十分では？地域のサービスは期待できない
- これからの地域生活移行の方針など、納得のいく説明がほしい
- 個別に、具体的に説明してほしい
- 地域では、本当に本人の希望に沿った暮らしができているのか？地域になじめるのだろうか・・・

地域生活移行者の聴き取り調査について

目的：

ご本人の声を基に地域生活への移行検証を行い、今後の地域移行支援のあり方について検討するため

対象者：

地域移行支援センター事業利用者：**124人**

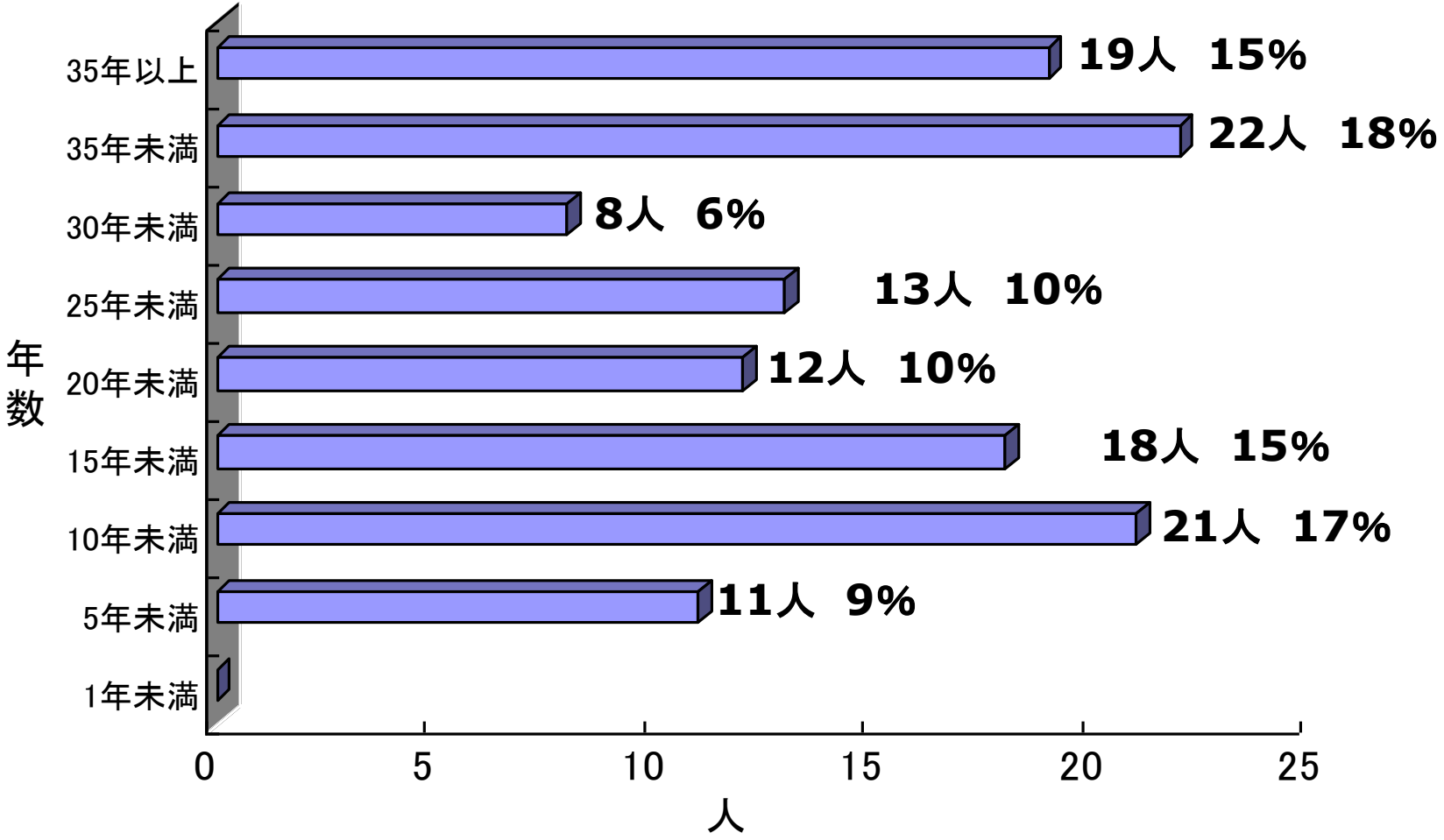
調査方法：

聴き取り担当者がホームに出向き、直接お話を伺う

『地域生活移行は、施設から地域にでれば終わりではなく、地域で安心かつ快適な生活を送ることが目的』

聴き取り対象者の入所期間
（移行センター事業利用者）

対象者　N＝124人



施設を出たかった理由

【回答の多かった理由】

- 喧嘩が多くていやだった（22人）
- 人が多く、うるさかった（18人）
- 将来一人暮らしをしたいと思った（6人）
- 家（家族）の近くに行きたかった（6人）
- 特に理由はない（6人）

【その他】

- 非常ベルの音が怖かった
- コロニーは職員と一緒じゃないとだめなことが多かった
- 先にホームに行った友達が楽しいって言ったから
- 想像して、小さいお風呂に入ってくつろぎたいと思った

上記の理由は、施設内支援のあり方にフィードバック

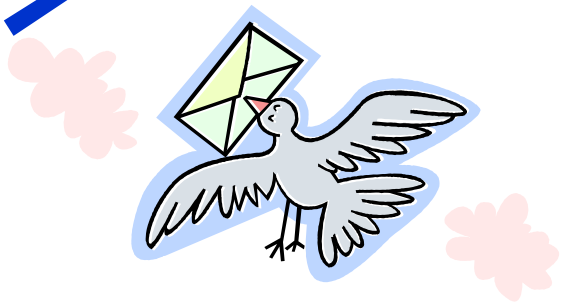
地域の輪の中で暮らすということ

「ご近所とのおつきあいは？」・・・

- さみしくなれば、近所のたこ焼き屋に出かけ、店の人と話をする
- 近所の人に梅酒缶をもらったので、旅行の土産を買ってきてあげた
- おとなりがミカンをくれた
- 玄関ドアが開かなくなったとき、近所の人が気づいて手伝ってくれた
- 近所の新聞屋さんが友達

地域で生活されている方からの

コロニー利用者へのメッセージ



- 職員やみんなに遊びにきてほしい
- みんなと仲良くしてけんかをしないでください。
- グループホームは楽しいよ。めっちゃいいとこやでー
- 自分でしたいことできるから最高や
- コロニーやったらバスまたなあかんけど、買い物すぐいけるしええ
- 仕事を一生懸命がんばったほうがいいよ。お金を大切に
- あせらんとゆっくり考えてグループホームに出た方がいい
- 経験せんとわからんし
  あかんかったらもどる方法もあるんやし

～聴き取り調査にて～

　さいしょは、ちょっぴり不安も有り、世話人さんはどんな人だろう、もしかしてこわい人かな？と思ったことがありました。今ではそんな不安もなく、普通に生活できるようになりました。たとえば、風邪をひいて寝込んだ時は、世話人さんが部屋に来て熱を計ってくれる。病人食も作ってくれたりもしてくれます。

（中略）

もうしせつには、二度と入所しません。やっぱりここ　の生活になれたから。

ホームの食事　美味い

（原文のまま）

事例1　Yさんのケース

地域移行支援センター事業を活用しての
児童施設からの地域生活移行（進路活動）

～支援学校高等部卒業後にケアホーム入居に向けて～

【プロフィール】

- 女性
- 自閉症　障害程度区分６
- 中学生の時に、児童施設入所
  - ・行動障害が激しくなり、思春期を児童施設で過ごす
  - ・構造化された生活環境で徐々に落ち着いてきました

施設の暮らしが地域の暮らしにつながるように

- **家族の絆を大切に**

  ・必ず続けられた週末帰宅

  ・育ちの共有（徐々に落ち着き、成長していく）

  ・どんな、女性に育ってほしいかイメージの共有

  ～大人や世の中への安心感を育てる～

- **地域移行支援（進路活動）は最低2年は必要**

  高等部2年生－情報収集と基本方針

  高等部3年生－学校の進路指導と連携

  春から具体的な取り組み

地域から「ウエルカム！」と言ってくれている環境づくり

- **高等部2年生**
  - ・ 情報収集 （お母さんも積極的に）
  - ・ 卒業時に地域移行を目指すことの確認（成人施設入所も視野に入れていた）
  - ・ 夏休みに、通所体験

- **高等部3年生**

（春） 家族、施設職員が通所、ケアホーム視察

（夏） 通所体験

・キーパーソン（ケアホームのサービス管理責任者）と打ち合わせ等開始

（秋） ケアホーム担当が施設で一緒に生活、学校での活動や家庭生活の様子を確認

・ケアホーム体験入居

・施設での支援がケアホーム等で継続できるように

・カード　スケジュールボード　ケアホームでのすごし方（余暇内容）

（冬） 課題整理

地域から「ウエルカム！」と言ってくれている環境づくり

- **地域の社会資源と入所施設の協働**

  入所中の支援・意思形成・情報提供と視察・
  相談支援とネットワークへのリンク・個別支援計画作成・
  日中活動と住居、医療、余暇、権利擁護　等

- **地域生活の仕組みをつくるには・・・**

  ・キーパーソン・地域が安心し納得できる施設の関わり
  ・キーパーソンが移行と同時に主体的に取り組めるような
  ケア会議を開催

- **地域からの声かけは、本人・家族に安心と「夢と希望」を与える**

  施設からだけでは、「出て行け」と受け取られがちに

事例2　Nさんのケース ～ビデオにて紹介～

重度の知的障がいと精神障がいの重複障害のあるNさん
の移行を、多くの機関とのネットワークにより実現

◆プロフィール　　56歳　　女性（知的障がい・精神障がい）

◆移行のきっかけ

「家に帰りたい、家族と生活したい！」との希望であったが、家族の状況から困難であったため、地域生活移行についての利用者説明会に参加するなどして情報提供を行う。 結果、自宅近くのホームを利用しての地域生活への移行を本人が希望

◆移行前の事前体験

個別支援計画に基づき、地域生活への移行に向け、ホームの見学等を実施。また、自活訓練事業（旧法）を活用し、ブランチホーム（地域生活体験ホーム）での体験を行う。日中活動も、施設内の活動ではなく、施設外の地域にある日中活動の場へ一人で通所

移行後のNさんと職員の想いは・・・

◆移行後の本人の声

「楽しいよ（ホーム生活）」「お出かけ楽しい」「家も楽しいよ」

◆担当職員の振り返り

『「ホームでの生活は本当に大丈夫？ 」という不安の中、次々に生活に必要な支援が組み立てられていきました。自分だけの部屋を持ち、行きたいところへでかけ、仕事をして・・・家族のそばで生きることが保障されたNさんのとてもうれしそうな姿に、「これでよかったんだ！人生を少しでも楽しく過ごすサポートができて本当によかった」と胸が熱くなりました。Nさんの支援を通して、地域生活への移行支援の大切さ等多くのことを学び、私自身元気になりました。』

移行支援の中で施設や施設職員がすべきこと･･･

地域移行支援センタースタッフのアンケートより抜粋

《 回答センター数：15センター／23センター》

～移行支援上困ったことや施設側へ望むことは？～

- 地域生活のわかりやすい情報提供が重要
  （生の声を伝えることも効果的）
- 職員の情報不足が、地域生活移行支援のブレーキとなっている
- より実践的な事前体験・見学・体験入居は重要
- 選択肢を増やし、“選択すること” を経験することが大切
- 困ったときのために“失敗することの大切さ”を意識した支援が大切
- 金銭面での課題や対応策の事前検討がもっと必要
- 移行時に、本人・家族状況等の情報不足あり。情報提供は丁寧に！
- 定期的な訪問や連携が不可欠。困ったときはいつでも駆けつけられるシステム作りが必要。責任の所在を明確に！
- 「何かあったら言ってください」という施設職員の一言で安心してがんばれる

まとめ～これからの支援で大切なこと～

- **「立ち上がる主体」 感動が原点**

・施設支援も地域移行支援も自立支援

・利用者も職員も地域移行・エンパワメント

・職員は黒子

- **安心して　自然に**（**包括的で継続的な支援　ワンストップ窓口**）

・手を抜かず、ていねいに、あたりまえに、ケアマネジメント

・個別支援計画

- **地域を作る**

・「施設の機能を地域にも」から、重層的な支援へ

・家庭からケアホームも地域移行

- **いまががんばり時　－　バーンアウトしない・させない**

・複数で　チームで　組織で　関係機関で　地域で